

研究テーマ	自分の表したいイメージをもち、豊かに発想し構想する能力を育成する美術科の学習指導一中学校第1学年自然物からの構成「かたち発見」における、「作品イメージカード」を活用した学習活動の工夫を通して一
-------	--

稲敷市立桜川中学校 教諭 黒沢 恭子

I 研究テーマについて

創造活動において自分の心情や考えを生き生きとイメージし、それを自分の表現方法で作品として具現化できたときに創造することの喜びを味わうことができると考える。中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月）においても、創造活動の喜びは、「表現活動においては、ただ自由に表現するというのではなく、自己の心情や考え、イメージを基に自分が表現したいことをしっかりと意識して考え、それが自分の表現方法で作品として実体化されたときに実感することができる。」と述べられている。また、これからの美術科の教育においては、生徒一人一人の資質や能力の向上と自己実現を図るために、〔共通事項〕を柱に、「発想や構想の能力」、「創造的な技能」、「鑑賞の能力」などの育成したい能力を明確にしながら指導していくことが大切であると考え。

本校の生徒は、美術の授業に落ち着いて取り組んでおり、美術に興味がある生徒が多い。美術に興味をもてない生徒の理由としては、「絵がうまく描けない。」、「アイデアが浮かばない。」という回答が多かった。意識調査の結果や生徒との対話から、多くの生徒が、「うまく描く＝そっくりに描く。」という考えをもっており、自分の絵が本物に似ているかどうかだけに価値が偏ってしまっている。また、つくりたいものが思い浮かばず、その段階で表現意欲が低下している生徒もいる。

そこで、今回は自然物を基にした平面構成の題材において、「作品イメージカード」を活用した学習活動の工夫を通して、自分の表したいイメージをもち、豊かに発想し構想する能力を育成することをねらいとした。まず、生徒が考えたことや想像したことなどから表現したい主題を生み出せるようにすることで、表現したいことを実現させようとする創造のエネルギーを引き出し、構想が一層豊かに膨らんでいくと考える。「作品イメージカード」を活用した学習活動を工夫することで、生徒自らが表したい主題を生み出し、その実現に向けて、構想が豊かに膨らみ、表現を追求し、創造活動の喜びを味わえるようにしていきたい。

「作品イメージカード」を活用し、対象を捉えて描くこと、多くのアイデアを出しイメージを広げながら画面構成や彩色すること、作品に対する自分の思いや考えを説明し合うことなどの学習活動を通して、豊かに発想し構想する能力を育成していきたい。

II 研究の実際

1 題材名 かたち発見

2 題材の目標

平面構成に興味をもち、自然物のかたちの美しさを基に表したいイメージをもち、構成美の要素を取り入れた画面構成や自分の思いに合った配色を考え、デザイン用具を効果的に活用しながら、自分の思いに合った方法で表現するとともに、自他の作品を鑑賞し、自分の価値意識をもってよさや美しさを味わうことができる。

3 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は、美術の授業に集中して取り組むことができる。しかし、実態調査から、約74%の生徒が課題を前にアイデアが「なかなか浮かばない」、「全然浮かばない」と回答している。また、約34%の生徒が発想や構想の段階で楽しく主体的な活動ができていないことが分かった。さらに、「アイデアが浮かばないこと」、「絵に苦手意識があること」、「表したいイメージを実現化できないこと」が美術の時間やる気を失ってしまう生徒の要因となっていることが分かった。
(平成26年度1学年調査)

(2) 題材観

本題材は、自然物や人工物のスケッチから発展させ、デザイン表現の基本を学習することをねらいとしている。日常見慣れた物の見方を工夫することで魅力的な形が出現する。それらのスケッチから発展させ、構成の学習につなげる。本題材の学習は、効果的に基礎的能力を習得させることが可能であり、学習指導要領に示されている第1学年の目標(2)「対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。」の達成につながるものと考ええる。

(3) 指導観

生徒は、美術の授業を楽しみにしており、授業中も集中しながら意欲的に活動している。事前のアンケート調査では、1年生の約8割の生徒が「絵を描くことが好き」と答えた。さらに、「美術の時間にできるようになりたいことは何か」という質問に対して、多くの生徒が「絵が上手になりたい」と答えており、絵画制作への意欲が高いことがわかった。

そこで、本題材の指導にあたっては、生徒の願いや意欲を受け止め、発想や構想の能力と、創造的な技能を相互に関連させることによって力を伸ばしていきたい。そのために、「作品イメージカード」(生徒が表したいイメージと実現方法を言葉や絵で自由にメモしていくワークシート)を取り入れた学習活動を展開していく。「作品イメージカード」を基に、生徒が制作を進めたり、教師が支援をしたり、学び合い活動を取り入れたりとすることで、生徒の表したいイメージの実現、目標の達成につながっていくものと考ええる。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
平面構成に興味をもち、意欲的に制作しようとする。自然物のかたちの美しさに気付く、意欲的に表現しようとする。	表したいイメージをもち、構成美の要素を取り入れた画面構成や自分の思いに合った配色を考えることができる。	ポスターカラーの基本的な技法を習得し、デザイン用具を効果的に活用しながら、自分の思いに合った方法で表現することができる。	自他の作品を鑑賞し、自分の価値意識をもってよさや美しさを味わうことができる。

5 指導と評価の計画（13 時間扱い）

次	時	学習活動・内容	評価規準・【評価方法】
1	1 2 3～4	構想を練る。 ○ 自然物の観察の仕方を工夫し、スケッチする。 ○ スケッチを基に単純化や強調により形づくりをする。 ○ 構成美の要素を取り入れ画面全体の構成を考えながらアイデアスケッチをする。	・自然物の観察から形の美しさに気付き意欲的に表現している。【関】【活動の様子・作品】 ・スケッチを描く手順と注意点を意識し形の特徴を捉えたスケッチを描いている。【創】【制作の様子・作品】 ・スケッチを基に単純化や強調を考え、いろいろに形を工夫している。【想】【制作の様子・ワークシート・作品】 ・表したいイメージをもち構成美の要素を取り入れた画面構成をしている。【想】【制作の様子・ワークシート・作品】
2	5～6 7～11 12	下描き・配色計画・彩色・仕上げ ○ ケント紙に下描きする。 ○ 配色計画を立て彩色する。 ○ 仕上げる	・デザイン用具を効果的に活用し美しい下絵を描いている。【創】【制作の様子・作品】 ・自分の思いや考えに合った配色を考えている。【想】【ワークシート・作品】 ・自分の思いに合った表現方法を工夫し表現している。【創】【制作の様子・作品】 ・ポスターカラーの使い方を理解して丁寧に平塗りしている。【創】【制作の様子・作品】
3	13	作品鑑賞会・まとめ ○ 鑑賞会をする。	・友達の作品を鑑賞し、よさや美しさを味わっている。【鑑】【活動の様子・ワークシート・作品】

6 指導の実際

(1) 授業の実際

第1時では、題材の予告の際に参考作品を提示し、生徒に対象物にしたいものを考え用意させることで制作への意欲付けとした。生徒は自分が選択した対象物の形の面白さや美しさを発見しようと、皮を剥いたり切断したりしながら細部まで観察し、スケッチしていた。絵を描くことに苦手意識をもっている生徒が多いので、失敗しても何枚もかけるようにクロッキー用紙を使用した。

第2時では、まず、参考作品を提示し、単純化や強調による形づくりに気付かせた。次に、「作品イメージカード」を取り入れ、表したい感じと、それを実現するためのアイデアを言葉で書かせた。表したい感じは、「楽しい感じ」、「癒される感じ」、「カラフルな感じ」などが見られた。実現するためのアイデアは、「曲線を使って流れるような線を描く」、「優しい感じの色を使う」、「グラデーションを使う」などがあった。生徒は、こんな感じにしたいという思いを抱きながら、形づくりを進めた。（表1「作品イメージカード」を位置付けた学習過程）

第3時～第12時では、少人数グループで「作品イメージカード」を基に意見交換をする時間

や中間鑑賞会を設定した。友達の記録を参考にすることで、構想することへの意欲が高められ、「作品イメージカード」には言葉や図が増えていった。また、表現をする段階でも、「作品イメージカード」を活用して友達に相談したり、アイデアを修正したりしながら制作する生徒が見られた。生徒は、「作品イメージカード」を活用し、構想を確認したり見直したりし、自分の表現したいものが明確になっている様子が見られた。(別添資料1：学習指導案(第7時))

第13時では、表したことを伝え合う鑑賞会を行った。まず、「作品イメージカード」を基に、これまでの学習を振り返り、自分の表現意図を整理しながら作品解説カードを書かせた。次に、少人数グループで、インタビュー形式で鑑賞会を進めた。聞き手は、作者の思いが作品にどう表現されているかを見て、気になることを質問した。作者は作品や「作品イメージカード」を提示し、分かりやすく説明することを心掛けた。作者は自分の思いを言葉にし、聞き手は作者の思いを聞くことで、生徒はこれまで気付かなかった作品の工夫やよさに気付くことができた。

表1 「作品イメージカード」を位置付けた学習過程

学習過程	「作品イメージカード」を活用した活動	ねらい
発想をする	○表したい感じと実現するためのアイデアを言葉で書く。	主題を見付ける。
構想をする	○表したい感じと実現するためのアイデアを絵や図で描く。 ○考えたことを説明し合う。 ○伝え合ったことを基に話し合う。	表現の構想を具体的にする。
表現をする	○言葉や絵・図で表したものを基に制作する。 ○新しいアイデアを加えたり修正したりする。 ○考えたことを説明し合う。 ○伝え合ったことを基に話し合う。	表現したいものが効果的に表しているか確認する。
鑑賞をする	○作品への思いや考え・工夫を書く。 ○作品に対する自分の思いや考えを説明し合う。 ○伝え合ったことを基に話し合う。	自分の思いやそれを表すための工夫を振り返る。 見方や感じ方を広げ新しい価値をつくりだす。 学んだことや経験したことを共有化する。

(2) 「作品イメージカード」を活用した授業の展開(資料1)

(資料1：第7時の展開)

学習活動・内容	支援の手立て(◎評価)
1 本時の活動内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">表したい感じを大切にし、配色を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードの前回の記述を基に自分の活動を振り返り、本時の活動への意欲を高めたい。 ・自分の表したい感じを表現するためには、配色計画も重要な要素であることを参考作品を提示して説明し、本時の授業に対する意欲付けとする。
2 参考資料、レタリングの作品を見て色彩について話し合う。 ・既修の色彩の学習を振り返る。 ・レタリングの作品を見て「表したい感じ」と配色の	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩についての資料や、前題材で制作したレタリングの作品を振り返ることで、色彩について更に理解が深められるようにする。 ・挙手がない場合は、学び合いグループで「表したい感じ」と配




<p>関わりについて気付いたことを挙手により2, 3人が発表する。</p> <p>3 「作品イメージカード」を基に配色を考える。</p> <p>(1) 説明を聞き、手順や注意点を理解する。</p> <p>① 「作品イメージカード」を基に考える。</p> <p>② 配色カードを活用する。</p> <p>③ 色鉛筆の濃淡を工夫して表現する。</p> <p>④ 色鉛筆だけで表現できない部分は使用する絵の具や色の名前をメモしておく。</p> <p>⑤ 時々作品を目から離して見る。</p> <p>(2) 学習カードに本時の目標を記入する。</p> <p>(3) 作品イメージカードを基に配色を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>予想される生徒の反応</p> <p>ア 手順や注意点を理解し作業が着々と進められる。</p> <p>イ 表したい感じに合った色が決められない。</p> <p>ウ 表したい感じがまとまらない。</p> </div> <p>5 グループ内でお互いの配色を説明し合い、友達の制作のよい点を見付け、全体で発表する。</p> <p>6 本時のまとめをし、次時の学習を確認する。</p>	<p>色が合っている友達を推薦させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順や注意点を資料を提示しながら説明し、生徒一人一人が理解できるようにする。 ・自分の表したい感じを大切に配色を考えられるように、「作品イメージカード」を確認しながら作業を進めるように助言する。 ・生徒の理解を確認するために、各自の目標を学習カードに記入してから制作に入るように促す。 <p>◎ 自分の思いや考えに合った配色を考えている。 (発想や構想の能力・スケッチブック・観察)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒の反応への手立て</p> <p>ア 時々描いたものを離れて見たり他者に感想を聞いたりしながら表したい感じと表現が合っているか確認するよう助言する。</p> <p>イ 教師と共に表したい感じから連想する色や表現を話し合いながら、配色カードを活用し別紙で試しながらイメージに合ったものを見付けるよう助言する。</p> <p>ウ 教師と共にスケッチを見直し話し合いながら、対象物の印象や観察したときの感動からイメージをつかむきっかけをつくる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の説明を聞き、「どんなところが表したい感じに合っているか」という観点で見ることで、見方や感じ方を広げられるようにする。 ・話合いで気付いたことや新たなアイデアなどを「作品イメージカード」に書き込ませることで、発想が更に膨らむようにする。 ・学習カードに気付いたこと、感じたこと、質問等を記入することで本時の学習の理解や思いを深めたい。
---	--

d

かたち発見

作品イメージカード

1年組 番氏名

<p>作品の表したい感じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 明るい感じ ◦ 複雑 ↓ (黒・白) ◦ ミステリアスな感じ ◦ りんごもグラデーションしてカラフルにする <p>友からのアドバイス もっと複雑にした方が良い もう少し黒と白の割合が大きいです。</p>	<p>実現するためのアイデア *思いついたらすぐメモしよう！</p> <p>明るい色を使う グラデーションを使う</p>   <p>と入れる</p>  <p>とつやを入れる</p>
--	--



・この生徒は下絵を描く段階で構想を変更したくなった。アイデアが浮かばず悩んでいたが、グループでの意見交換で新たなアイデアが浮かびカード右端の絵が描き込まれた。

e

かたち発見

作品イメージカード

1年組 番氏名

<p>作品の表したい感じ</p> <p>明るくてさわやかなイメージにしたい。</p> <p>↓</p> <p>空 → 水色</p> <p>朝の空と夜の空</p> <p>雲 太陽</p> <p>黒で表す。</p> <p>星 → 青い → ちと → 人形</p> <p>近い黒が抜けいい</p> <p>なる。</p> <p>水色 → 水色 → 水色</p>	<p>実現するためのアイデア *思いついたらすぐメモしよう！</p> <p>さわやか → 明るい色。(はいわり)</p> <p>明るい → 少しこい。(りんご)</p> <p>グラデーションとコントラストも使いました。</p> <p>先生からのアドバイス</p> <p>りんごの半分を本物のような感じで、 のこり半分を平めりて表してる</p> <p>かけさつり</p> <p>りんごの夜は部分の色に黒と赤と黒 朝の部分も赤と黒 表した。</p>
---	---



・この生徒は表したい感じからイメージマップで作品イメージを明確化している。連想したもののから配色のアイデアが浮かんでいる。

f

かたち発見

作品イメージカード

1年組 27番氏名

<p>作品の表したい感じ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 見ている楽しくなる。 ◦ いい匂いトマトを書く。 ◦ 夏をイメージして(色) <p>はいてる</p> <p>太陽 光</p> <p>トマトの中はグラデーションできれいに!</p> <p>←先生 友達 からのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ トマトの中にさやうも入れている。 ◦ トマトの赤をさやうと色を混ぜてみる。 ◦ グラデーションをいろいろ混ぜてみる。 	<p>実現するためのアイデア *思いついたらすぐメモしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 色を明るくする → オレンジ、黄色、白 ◦ 種類をい、はい書く。 ◦ トマトをさやうにする <p>赤 色をこく 白と青</p> <p>グラデーション</p> <p>色をいんべん変える</p>
---	---



・この生徒が一番右のトマトの表現がなかなか決まらなかった。グループ以外の友人や教師とも「作品イメージカード」を基に意見交換しアイデアをまとめた。

Ⅲ 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 「作品イメージカード」に思い付いたアイデアを絵や言葉を用いて表したい感じをスケッチすることで、生徒が表したい主題を生み出すことができた。
- ② 「作品イメージカード」を活用することで、形や色彩などの性質や感情などを考え、自分の表したい感じに合った方法を追求し工夫する姿勢が身に付いた。
- ③ 「作品イメージカード」を発想や構想の段階だけでなく学習過程全体を通して活用させたことで、他者と意見交換しながら構想を深めることができ、生徒相互の意欲の喚起につながった。
- ④ 「作品イメージカード」を基に自分の表したいことを説明したり、話し合ったりする活動を通して、作品に込められた作者の思いを感じ取ろうとする姿勢が身に付き、鑑賞会では、友達の作品のよさや美しさを味わっていた。

(2) 今後の課題

今後「作品イメージカード」を更に有効なものにしていくためには、活用できなかった生徒への支援の手立ての工夫が必要である。今後は活用できた生徒の例を参考に提示したり、生徒との対話から発想につながる言葉を引き出したりしながら、「作品イメージカード」の有効性を高めていきたい。また、題材後の意識調査で、満足できる作品に仕上がらなかったという生徒が見られた。発想し構想したことを実現するためには、多様な表現方法を身に付けさせる必要がある。引き続き、[共通事項]を柱に学習活動を工夫し、生徒自らが表したい主題を生み出し、構想が豊かに膨らみ、表現を追求することで作品として実体化し、生徒が創造活動の喜びを感じられるようにしていきたい。今後も、身に付けさせたい力を明確にしながら授業の在り方を探究していきたいと考えている。

<参考文献>

中学校学習指導要領解説美術編（平成 20 年 9 月） 文部科学省